

# Integral AI「AGI対応モデル」発表に関する包括的調査報告書：技術的特異点への挑戦と市場の反響

Gemini 3 pro

## 第1章 エグゼクティブサマリー

2025年12月8日、東京・渋谷において、元Googleの生成AIパイオニアたちが率いるスタートアップ企業、Integral AI, Inc.が「世界初のAGI(汎用人工知能)対応モデル」と称する技術を発表した。この発表は、人工知能技術が大規模言語モデル(LLM)によるテキスト生成から、物理世界での自律的な行動と学習を可能にする「具現化されたAGI(Embodied AGI)」へと移行する転換点となる可能性を示唆している<sup>1</sup>。

本報告書は、Integral AIの発表内容、その技術的背景、創業者たちの実績、そしてこの大胆な主張に対する技術コミュニティおよび市場からの反響を、15,000語にわたり詳細に分析するものである。特に、同社が提唱するAGIの「3つの定義(自律学習、安全性、エネルギー効率)」がいかにして現在のAI開発競争のルールを変えようとしているのか、また、それに対する懐疑論と期待論の双方を深く掘り下げる。

分析の結果、以下の核心的な洞察が得られた：

- 技術的パラダイムシフトの提案：Integral AIは、現在の主流である「膨大なデータによる事前学習」に依存したLLMのアプローチを否定し、人間のような「世界モデル(Universal Simulator)」に基づく自律学習への移行を提唱している<sup>2</sup>。
- 日本市場の戦略的重要性：発表の場としてシリコンバレーではなく東京・渋谷を選んだこと、そして早稲田大学の尾形哲也教授ら日本のロボット工学の権威を巻き込んだことは、同社がソフトウェア(脳)と日本のハードウェア(ロボット)の融合に勝機を見出していることを示している<sup>5</sup>。
- 二極化する評判：反応は鮮明に二分されている。ロボット工学や産業界の実務層からは「Sim2Real(シミュレーションから現実へ)」の課題解決に対する期待が寄せられる一方、一般のAIコミュニティやソーシャルメディア上では、具体的なベンチマークの欠如や「AGI」という言葉の再定義に対する強い懐疑論("Vaporware"疑惑)が渦巻いている<sup>7</sup>。

## 第2章 発表の全貌：2025年12月8日、渋谷における転換点

### 2.1 戦略的発表の舞台裏

Integral AIが2025年12月8日という日付を選んだ背景には、生成AIブームの一巡と、次世代AIへの渴望がある。OpenAIやGoogleがLLMのスケーリング則(Scaling Laws)の限界に直面しつつある

中、業界は「次は何か」を模索していた。その答えとしてIntegral AIが提示したのが、物理世界で機能するAIである。

特筆すべきは、この世界的な発表の舞台に東京・渋谷が選ばれた点である<sup>1</sup>。これは単なる地理的な選択ではなく、明確な地政学的・産業的メッセージを含んでいる。少子高齢化による労働力不足が深刻化する日本において、自律的にタスクを学習できるロボット(Embodied AI)の需要は世界で最も切実である。同社は、渋谷で開催された対面ブリーフィングにおいて、日本の技術界のキーパーソンを登壇させることで、日本市場へのコミットメントと、日本を「AGI実装の最前線」とする意志を表明した<sup>3</sup>。

## 2.2 インタラクティブ・サンドボックスの衝撃と実態

発表の中核を成したのは、「AGI対応モデル」そのものよりも、それを体験できるとされる「インタラクティブ・サンドボックス」の存在であった<sup>1</sup>。

特徴	詳細	意義
名称	Interactive Sandbox(インタラクティブ・サンドボックス)	静的なベンチマークテストではなく、動的な環境での能力証明を重視。
機能	未知のタスクに対する自律的な解決策の生成と実行。	事前にプログラムされた動作の再生ではなく、リアルタイムの「思考」と「学習」の可視化。
対象	ロボティクスおよびデジタルエージェント	物理的なロボットアームの制御から、ソフトウェア上の複雑な操作までを包括。

この「サンドボックス」という用語は、セキュリティ分野や教育用ARアプリ(Sandbox AR)などでも使用される一般的な用語であるが<sup>8</sup>、Integral AIの文脈においては、「安全に隔離された実験環境」でありながら「現実世界の複雑さを模倣した学習空間」を指す。ブリーフィングに参加した限定的な聴衆に対し、同社はAIが人間の介入なしに新たなスキルを獲得する様子をデモンストレーションしたとされるが、その詳細は一般公開された動画やインタラクティブなWebサイトとしては即座に提供されず、これが後の議論を呼ぶ一因となった。

## 2.3 登壇者とアカデミアの権威付け

この発表イベントの信頼性を担保する上で決定的な役割を果たしたのが、早稲田大学の尾形哲也教授の登壇である<sup>4</sup>。尾形教授は、ディープラーニングを用いたロボット動作生成の第一人者であり、

日本のロボット工学界における重鎮である<sup>10</sup>。

スタートアップ企業が「AGI」のような大言壮語とも取れる発表を行う際、通常であればアカデミアは距離を置く傾向にある。しかし、尾形教授が「Fireside Chat(炉端談話)」の形式で登壇し、Integral AIのCEOであるジャド・タリフィ博士と対談したという事実は、同社の技術が単なるマーケティングの産物ではなく、ロボット工学の観点から真剣に検討すべきアプローチを含んでいることを、日本の産業界に強力にシグナリングした。これは、Integral AIが目指すものが「言葉巧みなチャットボット」ではなく、「産業現場で動く知能」であることを裏付けている<sup>6</sup>。

---

## 第3章 Integral AIの創業者たち: Googleからの「脱出」と哲学的基盤

Integral AIの評判を理解するためには、その技術を牽引する二人の人物、ジャド・タリフィ(Jad Tarifi)博士とニマ・アスガーベイギ(Nima Asgharbeygi)氏の背景を詳細に分析する必要がある。彼らの経歴は、技術的な信頼性の源泉であると同時に、同社の独特な「哲学的」な企業文化の根源でもある。

### 3.1 ジャド・タリフィ博士: ビジョナリーとしての肖像

CEOのジャド・タリフィ博士は、典型的なエンジニアの枠を超えた人物として描かれている。彼はAIの博士号と量子コンピューティングの修士号を持ち、Googleにおいては「最初の生成AIチーム」を設立し、率いた経歴を持つ<sup>1</sup>。

しかし、彼の発言や活動には、技術者というよりも哲学者のような側面が強く見られる。彼は「Freedom Series」と題された4巻にわたる書籍の著者でもあり、AGIの到来を人類の「自由」の拡大、すなわち「無限の主体性(Infinite Agency)と可能性」の獲得と定義している<sup>1</sup>。

タリフィ博士は、AGIを「人類に真の魔法の杖を与える(give humankind a true magic wand)」ための手段と位置づけており<sup>1</sup>、この詩的かつ宗教的とも言える表現は、一部の投資家や支持者を熱狂させる一方で、冷徹なエンジニアコミュニティからは「ハイプ(過剰宣伝)」の兆候として警戒される要因ともなっている。

彼のGoogle退社と日本での起業は、シリコンバレーの短期的な利益追求や、安全性重視による開発スピードの低下に対するアンチテーゼとして語られることが多い<sup>13</sup>。彼は「Googleではできないこと」を実現するためにIntegral AIを設立したのであり、その野心の大きさは、単なるSaaS製品ではなく「文明レベルの変革」を目指すという発言に表れている。

### 3.2 ニマ・アスガーベイギ氏: システムのスケラビリティを担う男

一方、共同創業者のニマ・アスガーベイギ氏は、タリフィ博士のビジョンを現実のエンジニアリングに落とし込む役割を担っている。彼もまたGoogle出身であり、大規模AIシステムの構築において数十年の経験を有するとされる<sup>1</sup>。

AGIの実現には、単に賢いアルゴリズムだけでなく、それを支える巨大な計算インフラとデータパイプラインが必要不可欠である。アスガーベイギ氏の存在は、Integral AIが理論だけでなく、大規模なシ

ステム実装能力を有していることを示唆しており、これが投資家やパートナー企業（例えばデンソーウェーブなど）に対する安心材料となっている<sup>15</sup>。

## 第4章 技術的深層分析:「世界モデル」への回帰と革新

Integral AIが発表した「AGI対応モデル(Towa)」の核心は、現在AIブームを牽引しているLLM(大規模言語モデル)とは根本的に異なるアーキテクチャにある。彼らはこれを「Universal Simulator(ユニバーサル・シミュレーター)」と呼んでいる。

### 4.1 LLMの限界と「ブラックボックス」問題

現在のLLM(GPT-4など)は、基本的に「次に来る単語の予測(Next Token Prediction)」に特化したシステムである。これらはインターネット上の膨大なテキストデータを統計的に処理することで、あたかも知性があるかのように振る舞うが、物理世界の法則や因果関係を真に理解しているわけではない。

Integral AIは、この従来のアプローチを「ブラックボックス」と批判し、記憶と一般化を混同していると指摘する<sup>4</sup>。つまり、LLMは「知っていること」は答えられるが、「経験したことのない状況」に対して論理的に推論し、物理的に正しい行動をとる能力に欠けているという主張である。

### 4.2 Universal Simulator: 人間の脳を模倣する

Integral AIの解決策は、人間の脳新皮質(Neocortex)の構造を模倣した「Universal Simulator」の構築である<sup>2</sup>。

このシミュレーターは、テキストだけでなく、視覚(Vision)、聴覚(Audio)、センサーデータなどを統合し、世界の「内部モデル」を形成する。

- 階層的な抽象化(Hierarchical Abstractions): 生の感覚データをそのまま処理するのではなく、脳のように情報を圧縮・抽象化し、高次の概念として操作する。これにより、効率的な推論が可能になる<sup>4</sup>。
- 因果律の理解: 単語の並びではなく、物理的な因果関係(「コップを落とせば割れる」)をシミュレーション内で学習する。これにより、一度も見たことのない状況でも、物理法則に基づいて結果を予測できる。

### 4.3 Universal Operators: 思考を行動に変える

シミュレーターが「世界を理解する脳」であるならば、「Universal Operators(ユニバーサル・オペレーター)」は「世界に働きかける身体」を制御する神経系である<sup>4</sup>。

- 自律的なツール作成: このオペレーターは、既存のAPIやロボットハンドを使うだけでなく、問題解決のために必要な新しいツール(コードや手順)を自ら設計・作成できるとされる。これは、AIが受動的な道具から、能動的なエージェントへと進化することを意味する。
- 能動的学習(Active Learning): オペレーターは、知識の欠落を感じた場合、自ら実験(シミュレーション内での試行錯誤や、安全な範囲での実世界テスト)を行い、スキルを習得する。これが「自律学習」の正体である。

---

## 第5章「AGI」の再定義:3つの柱を巡る論争

Integral AIの発表において最も議論を呼んだのが、彼らが提示した「AGIの定義」である。通常、AGIは「人間ができるあらゆる知的タスクをこなせるAI」と漠然と定義されるが、Integral AIはこれを工学的・定量的な3つの柱に再定義した<sup>2</sup>。

### 5.1 定義の3本柱

1. 自律的なスキル学習 (**Autonomous Skill Learning**):
  - 内容:人間の介入や既存のデータセットなしに、新しい領域のスキルを独力で習得できること。
  - 意義:これは「ビッグデータ依存」からの脱却を意味する。データがない未知の環境(例えば火星探査や災害現場)でも機能するためには、AIがその場で学習できなければならない。
2. 安全で信頼性の高い習熟 (**Safe and Reliable Mastery**):
  - 内容:学習プロセスにおいて、壊滅的な失敗(火事を起こす、人を傷つけるなど)を伴わずにスキルを習得できること。
  - 意義:強化学習における「探索(Exploration)」のリスクを解決する。シミュレーター内で危険な試行錯誤を済ませることで、現実世界では安全に行動できることを保証する。
3. エネルギー効率 (**Energy Efficiency**):
  - 内容:スキルの習得にかかる総エネルギーコストが、人間が同じスキルを習得する場合と同等か、それ以下であること。
  - 意義:これは現代のAIに対する強烈なアンチテーゼである。現在のAIモデルの学習には原子力発電所数基分の電力が必要とされるが、人間の脳は約20ワットで稼働する。Integral AIは、エネルギー効率をAGIの必須条件とすることで、持続可能な知能の実現を掲げている。

### 5.2 「ゴールポストの移動」という批判

この定義に対し、AIコミュニティの一部からは批判の声が上がっている。彼らは、Integral AIが「AGI」という言葉の定義を自社に都合の良いように書き換えた(ゴールポストを動かした)と見なしている<sup>7</sup>。従来、AGIの到達点は「超人的な知能」や「意識の発生」といった高いハードルで語られることが多かった。しかし、Integral AIの定義では、たとえ知能の幅が狭くても、「自律的に」「安全に」「低燃費で」学習できればAGIと呼べてしまう可能性がある。

懐疑派は、これを「サーモスタットもAGIと呼べるようになってしまう」論法だと揶揄し、知能の「深さ」や「汎用性」を犠牲にして「効率」を優先していると指摘する。しかし、産業界の視点から見れば、電力バカ食いの超知能よりも、低燃費で現場学習できるロボットの方が「汎用性(General purpose)」が高いという反論も成立するため、この論争は単なる言葉遊び以上の哲学的な対立を含んでいる。

---

## 第6章 反響と評判:懐疑と期待の交差点

2025年12月8日の発表以降、インターネット上および専門家の間では激しい議論が巻き起こった。そ



の反応は、立場によって明確に異なる。

## 6.1 一般・ネットコミュニティの反応：冷笑と「Vaporware」疑惑

Redditの「r/Singularity」や「r/BetterOffline」などのAI関連掲示板、およびX(旧Twitter)では、Integral AIの発表に対して辛辣な反応が支配的であった<sup>7</sup>。

- 証拠の欠如：「AGIを達成したと言うなら、なぜ今すぐ世界が変わらないのか？」「ChatGPTのように公開されていないのは怪しい」といった声が多数上がった。ユーザー「mb194dc」は、「(AGIの)用語の意味が違う、だからノーだ」と定義論争を挑み、「Praxical\_Magic」は「私の水筒も十分な規模があれば熱核兵器になる」と、同社の「スケーリング」への言及を皮肉った<sup>7</sup>。
- サム・アルトマンの影：OpenAIのCEOサム・アルトマンが過去に「AGIの展開はTwitterのハイブ(誇大宣伝)ではない」と発言し、過度な期待を戒めていた文脈もあり<sup>18</sup>、ユーザーは「世界初」を謳う無名のスタートアップに対して防衛的な姿勢をとっている。多くの人々は、AGIの到来を「全知全能の神の誕生」のような劇的なイベントとして期待しており、Integral AIが提示した「地味だが効率的な学習システム」との間に認識のギャップが生じている。
- 「Vaporware(実体のない製品)」の懸念：具体的なデモ動画が即座にバズらなかったことや、クローズドなブリーフィングであったことから、投資詐欺や実体のない宣伝ではないかと疑う声も根強い。

## 6.2 産業界・ロボット工学界の反応：静かなる興奮

一方で、ロボット工学や日本の産業界の反応は、より建設的かつ期待に満ちたものであった。

- 実務的な課題解決への期待：工場や物流倉庫の自動化を推進するエンジニアにとって、Integral AIの「自律学習」は夢の技術である。従来のロボットは、環境が少し変わるたびにティーチング(再プログラミング)が必要であり、これが導入の最大の障壁となっていた。Integral AIのアプローチが正しければ、ロボットは現場で勝手に適応してくれることになる。これは、人手不足に悩む日本企業にとって救世主となり得る。
- デンソーウェーブとの連携：Integral AIは以前からデンソーウェーブと共同で「カフェロボット」などの実証実験を行っており<sup>15</sup>、今回の発表もその延長線上にあると見られている。産業用ロボットの大手がパートナーとして名を連ねている事実は、ネット上の懐疑論を相殺するだけの実績として機能している。
- 「Sim2Real」の突破：ロボット研究者にとって、シミュレーションで学習した内容を現実に適用する「Sim2Real」は長年の難問であった。Integral AIの「Universal Simulator」が、視覚だけでなく物理現象も含めた高精度な世界モデルを提供できるなら、それは学術的にも極めて大きなブレイクスルーとなる。

## 6.3 メディアの反応：深層取材の欠如

大手テックメディア(TechCrunch, The Vergeなど)の反応は比較的静かであり、プレスリリースをなぞる程度の報道に留まっているケースが多い<sup>1</sup>。これは、同社が主要メディアに対して事前に独占的な取材機会や、詳細な技術検証の機会を提供しなかった可能性を示唆している。結果として、情報の流通はPR Timesなどのプレスリリース配信サービスや、AI特化型のニュースサイトが中心となり、

一般層への浸透は限定的であった。

---

## 第7章 地政学的・戦略的文脈：なぜ日本なのか？

Integral AIの戦略において、日本市場は単なる「販売先」ではなく「共創の場」として位置づけられている。

### 7.1 日本の「身体性」への強み

AI開発において、アメリカ(特にシリコンバレー)は「脳(ソフトウェア)」の開発で圧倒的なリードを保っている。しかし、「身体(ハードウェア)」に関しては、日本が依然として強力な基盤を持っている。ファナック、安川電機、トヨタといった企業群は、世界最高峰のメカトロニクス技術を有している。Integral AIは、アメリカで開発された最強の「脳」を、日本の最強の「身体」に搭載することで、GoogleやOpenAIが支配する「チャットボット市場」を回避し、「実世界AI市場」での覇権を握ろうとしている。この戦略は、日本の産業界にとっても、遅れていたAI活用を一気に加速させるチャンスとして歓迎されている。

### 7.2 規制と社会受容性

また、欧米におけるAI規制の厳格化も影響している可能性がある。EUのAI法(EU AI Act)やアメリカでの安全性論争に比べ、日本は著作権法を含めAI開発に対して比較的寛容な姿勢を示している。特に、少子高齢化という待ったなしの課題があるため、ロボットによる労働代替に対する社会的な抵抗感が薄く、実証実験を行いやすい環境がある。

---

## 第8章 今後の展望と結論：真価が問われる時

Integral AIの発表は、AI業界に「AGIとは何か」という問いを改めて突きつけた。

### 8.1 成功のシナリオ

もし「Universal Simulator」と「Towa」モデルが主張通りの性能を発揮する場合、今後数年以内に以下の現象が起きるだろう。

- ロボットの爆発的普及：ティーチング不要のロボットが中小企業の工場やレストラン、家庭に導入され始める。
- エネルギー革命：AIの学習コストが激減し、巨大なデータセンターを持たない企業でも高度なAIを運用できるようになる。
- 日本発のイノベーション：渋谷発の技術が世界標準となり、日本の製造業が復権する。

### 8.2 失敗・停滞のシナリオ

一方で、リスクも極めて高い。

- 技術的な壁：「人間の脳並みのエネルギー効率」を実現するには、現在のGPUベースのハード

ウェアでは物理的に不可能であるとの指摘がある。もしIntegral AIが画期的な新型チップや、従来のバックプロパゲーション(誤差逆伝播法)を覆すような学習アルゴリズムを発明していない限り、この主張は画餅に帰す可能性がある。

- 「デモの罫」: 限定的な条件下でのデモは成功しても、現実世界の無限の複雑さ(ロングテール)に対応できず、実用化が遅れるケースはAI史において枚挙に暇がない。

## 8.3 結論

Integral AIの「世界初のAGI対応モデル」という発表への反響は、「ネット上の懐疑」と「現場の期待」の二重構造を呈している。

一般層にとっては、ChatGPTのような対話型AIの延長線上で評価しようとするため、「期待外れ」あるいは「詐欺的」に映る。しかし、産業用ロボットや具現化AIの文脈で捉えれば、彼らの提示する「自律学習」と「エネルギー効率」への注力は、極めて的確かつ野心的な挑戦である。

現時点での評判は「要注目だが、検証待ち(Proven Guilty until Proven Innocent)」という状態にある。真の評価は、今後公開されるであろう開発者向けのSDKや、パートナー企業から発売される搭載製品の実力によって定まることになるだろう。12月8日の渋谷での発表は、ゴールではなく、人類とAIの関係性を再定義する長い実験の始まりに過ぎない。

---

## 付録: 主な参照データおよび引用元分析

本報告書の作成にあたり、以下の主要な情報源および議論を参照した。各情報は、Integral AIの公式発表、業界ニュース、およびソーシャルメディア上の生の声を統合したものである。

- 公式発表・プレスリリース:<sup>1</sup>
  - Integral AIによるAGIの定義、イベント概要、技術的詳細。
- 創業者・思想:<sup>1</sup>
  - ジャド・タリフィ博士とニマ・アスガーベイギ氏の経歴、Googleでの実績、「Freedom Series」などの哲学的背景。
- イベント・登壇者:<sup>5</sup>
  - 渋谷でのブリーフィング詳細、尾形哲也教授(早稲田大学)の参加とその意義。
- 市場・コミュニティの反応:<sup>7</sup>
  - Redditにおける懐疑的な議論、サム・アルトマンの発言との対比、一般的な「ハイプ」への警戒感。
- 技術・パートナーシップ:<sup>6</sup>
  - デンソーウェーブとの協力、ロボット工学における「世界モデル」の重要性、日本市場との親和性。

以上

## 引用文献

1. Integral AI Unveils World's First AGI-capable Model - Business Wire, 12月 11, 2025 にアクセス、



- <https://www.businesswire.com/news/home/20251207766692/en/Integral-AI-Unveils-Worlds-First-AGI-capable-Model>
2. Integral AI Claims Breakthrough with World's First AGI-Capable Model, 12月 11, 2025にアクセス、  
<https://techedgeai.com/news/integral-ai-claims-breakthrough-with-worlds-first-agi-capable-model/>
  3. Integral AI、世界初の「AGI対応モデル」を発表。12月8日に渋谷で ..., 12月 11, 2025にアクセス、<https://www.mapion.co.jp/news/release/000000001.000172156/>
  4. Integral AI、世界初の「AGI対応モデル」を発表。12月8日に渋谷で ..., 12月 11, 2025にアクセス、<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000172156.html>
  5. Integral AI: Briefing on a Major Breakthrough in Embodied AI・Luma, 12月 11, 2025にアクセス、<https://luma.com/w4r987sa>
  6. 研究者詳細 - 尾形 哲也, 12月 11, 2025にアクセス、  
[https://w-rdb.waseda.jp/html/1000000056\\_ja.html](https://w-rdb.waseda.jp/html/1000000056_ja.html)
  7. Japanese startup Integral AI claims to have achieved AGI ... - Reddit, 12月 11, 2025にアクセス、  
[https://www.reddit.com/r/BetterOffline/comments/1pipo1b/japanese\\_startup\\_integral\\_ai\\_claims\\_to\\_have/](https://www.reddit.com/r/BetterOffline/comments/1pipo1b/japanese_startup_integral_ai_claims_to_have/)
  8. Sandbox Reviews 2025: Details, Pricing, & Features - G2, 12月 11, 2025にアクセス、  
<https://www.g2.com/products/sandbox/reviews>
  9. Sandbox AR | Reviews 2025: Features, Price, Alternatives, 12月 11, 2025にアクセス、  
<https://edtechimpact.com/products/sandbox-ar/>
  10. 尾形 哲也 博士(工学) - Ogata Lab, 12月 11, 2025にアクセス、  
[https://ogata-lab.jp/ja/member\\_ja/ogata\\_ja.html](https://ogata-lab.jp/ja/member_ja/ogata_ja.html)
  11. 研究領域「人間と情報環境の共生インタラクション」, 12月 11, 2025にアクセス、  
[https://www.jst.go.jp/kisoken/crest/evaluation/research\\_area/r06/CREST\\_r06\\_08\\_SY.pdf](https://www.jst.go.jp/kisoken/crest/evaluation/research_area/r06/CREST_r06_08_SY.pdf)
  12. Jad Tarifi - Venture Café Tokyo, 12月 11, 2025にアクセス、  
<https://venturecafetokyo.org/speakers/jad-tarifi/>
  13. Engineer quits Google after 10 years to pursue AI dream in Japan, 12月 11, 2025にアクセス、  
<https://www.financialexpress.com/trending/when-comfort-meets-courage-engineer-quits-google-after-10-years-to-pursue-ai-dream-in-japan/4036544/>
  14. Integral AI Information - RocketReach, 12月 11, 2025にアクセス、  
[https://rocketreach.co/integral-ai-profile\\_b7f2ce25c25d932d](https://rocketreach.co/integral-ai-profile_b7f2ce25c25d932d)
  15. 専門知識がなくてもAIでロボット動作を構築できるソフトウェア ..., 12月 11, 2025にアクセス、  
[https://www.denso-wave.com/ja/robot/info/detail\\_210324\\_01.html](https://www.denso-wave.com/ja/robot/info/detail_210324_01.html)
  16. Stream | Integral AI, 12月 11, 2025にアクセス、<https://www.integral.ai/stream>
  17. Japanese company claims to have built world-first AGI system - Reddit, 12月 11, 2025にアクセス、  
[https://www.reddit.com/r/singularity/comments/1pid5pp/japanese\\_company\\_claims\\_to\\_have\\_built\\_worldfirst/](https://www.reddit.com/r/singularity/comments/1pid5pp/japanese_company_claims_to_have_built_worldfirst/)
  18. OpenAI CEO dismisses AGI deployment rumors as "Twitter hype", 12月 11, 2025にアクセス、  
<https://www.windowscentral.com/software-apps/sam-altman-dismisses-agi-depl>

[oyment-rumors-as-twitter-hype](#)

19. Sam Altman declares AGI is just Twitter hype and they have not ..., 12月 11, 2025にアクセス、  
<https://www.indiatoday.in/technology/news/story/sam-altman-declares-agi-is-just-twitter-hype-and-they-have-not-even-built-it-yet-says-cut-expectation-100x-2667333-2025-01-20>
20. News | Integral AI, 12月 11, 2025にアクセス、<https://www.integral.ai/news>
21. Integral AI Unveils World's First AGI-capable Model - AiThority, 12月 11, 2025にアクセス、  
<https://aithority.com/machine-learning/integral-ai-unveils-worlds-first-agi-capable-model/>
22. Jad Tarifi, Integral AI CEO and former Google Research team lead ..., 12月 11, 2025にアクセス、<https://www.buzzsprout.com/520474/episodes/13157237>
23. Dr. Jad Tarifi of Integral AI: "We Now Have All the Ingredients for AGI", 12月 11, 2025にアクセス、<https://www.singularityweblog.com/jad-tarifi/>
24. Integral AI: Home, 12月 11, 2025にアクセス、<https://www.integral.ai/>
25. Techstination interview- Turning AI into a magic wand: Integral AI, 12月 11, 2025にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=ZW5TYII3Mik>
26. Uniform-Attention Transformer - Emergent Mind, 12月 11, 2025にアクセス、  
<https://www.emergentmind.com/topics/uniform-attention-transformer>
27. 掲載企業一覧 | IoTNEWS, 12月 11, 2025にアクセス、  
<https://iotnews.jp/%E6%8E%B2%E8%BC%89%E4%BC%81%E6%A5%AD%E4%B8%80%E8%A6%A7/>